

城山学園小中一貫コミュニティスクール



通信

令和2年8月号

令和2年度 第1回

城山学園運営評議委員会



協議中の様子

7月21日（水）に、本年度第1回「学校運営評議委員会」が開催されました。主な内容は、運営協議会運営委員委嘱及び出席者の自己紹介、城山学園経営・研究・評価及び城山学園コミュニティスクールの準備についての説明。

協議においては、【城山学園で目指す姿の実現に向け、地域と家庭ができること】をテーマにコミュニティ運営協議会とPTAに分かれて協議、協議結果として「本年度できること」「今後取り組みたいこと」の報告がなされました。

コロナ渦の中、『子どもの安全・地域保護者への安心』の考えをもとにした報告

	コミュニティ運営協議会	P T A
本年度できること	◇自転車教室 ◇子ども110番の家の駆け込み訓練 ◇防災訓練 ◇平和展 等	◇あいさつ運動（保護者参加型） ◇地域の文化財行事（形式を考えて） 等
今後取り組みたいこと （可能な状況であれば）	◇防災訓練（水防訓練） ◇大名行列（伝統行事） ◇赤間宿祭り	◇学校行事に対して、今の時代に合わせたPTA活動としてのあり方を考える ※参加型組織形成、ボランティア 親父の会 等

【教育大学：菅沼先生の指導助言】

保護者地域が同じ思いを共有し子どもをはぐくむことが必要である。

今の時代にあったものを考える（コロナ渦に何が出来るか）。

理想は、子どもが思いをつなげ参加貢献すること。そのためには、**地域を好きになることから地域に貢献する子どもに育てていくこと**。小学校高学年から中学生への積み上げが大切である。

防災意識については、地域のニーズに応じた避難生活を行い、安全面では助け合うこと。また、**地域に助けられるから、地域を助けるのは自分だ**という同じ考えをもつことにより、子どもは達成感を味わうことができる。

【教育大学：鈴木先生の指導助言】

『子どもの安全・地域保護者への安心』を考えると、行う取組についての価値と優先順位が必要である。

大人が子どもを教育しない。ルールを押しつけない。常識を押しつけない。という条件のもと。

○（例）八女市矢部清流学園の自分ランチファイルの取組から

「昼ご飯をつくろう」の取組で、経験のない子は、うまかつちゃんをつくるからスタート。次に、卵を入れて、ネギを入れて（自分のために）

帰宅が遅いという家庭環境から家族ご飯（晩ご飯づくり）→自分のためから家族のためにへの変化
栄養教諭、養護教諭の助言で、釣った魚の調理法→ブルーギルを丸ごと油で揚げる。おいしい。ブルーギルは外来種、というところから環境問題へ広がる。

◇コミュニティスクールとは

責任分担方式で大人同士をどうつなぐかということ。

学園としてのめざす子ども像を掲げても、赤間っ子、吉武っ子のように独自性をもたせ、よさを生かしながら統合していく。また、地域コーディネーターが学校とつなぐ役割を果たす。その地域コーディネーターの育成が必要である。

コーディネーターが月に1回集まり、学園とコラボレーション。連帯と協同する力、すなわち関わりを深めることである。

◇城山学園の教育目標と学園・家庭・地域像

■ 伊目標 の美態から

かかわりを深め、豊かな心を持ち、
考えを高め合うたくましい子どもの育成

めざす学園像

家庭や地域と共に、社会に参画・貢献する
子どもを育成する学校
(新しい学力に向けた授業づくり)

めざす家庭像

子どもと学校に関心を持ち、
共に生活力を育成する家庭
(4校会を中心とした保護者のコミュニティづくり)

めざす地域像

子どもと学校に関心を持ち、
共に子どもの社会性を育成する地域
(子どもを核とした安心・安全な地域づくり)

◇城山学園経営構想図

■ 伊城山学園経営構想図

かかわりを深め、豊かな心を持ち、
考えを高め合うたくましい子どもの育成

めざす学校像

めざす子ども像

めざす教師像

重点目標

地域や社会の出来事に関心を持ち、進んで社会に貢献しようとする子どもの育成

経営の重点

学園が組織体として機能し、家庭・地域と連携・協働して子どもを育てる小中一貫教育の推進